論文番号　２２２

担　当

滋賀医科大学　福祉保健医学講座

題　名（原題／訳）

Alcohol and motor vehicle-related deaths of children as passengers, pedestrians, and bicyclists

アルコールと同乗中、歩行中、自転車乗車中における子供の交通事故死

執筆者

Lewis H. Margolis, Robert D. Foss, William G. Tolbert

掲載誌（番号又は発行年月日）

JAMA. 2000;283:2245-2248

キーワード

要　旨

1991 年から 1996 年にかけて飲酒習慣と関連して交通事故死亡は減少しているが、子供の交通事故死は飲酒によって引き起こされている。飲酒しての運転と子供の死亡との関連を車に同乗中、歩行中、自転車乗車中ごとに検討した。

方　法

1991 年から 1996 年のアメリカの交通事故白書をもとに解析を行った。同乗中、歩行中、自転車乗車中の 16 歳以下の子供 16,676 名と交通事故死亡との関連を、子供が死亡した交通事故で運転手が飲酒している状況を子供の性年齢、運転手、事故の状況別に検討した。

結　果

3,310 件（19.9%）がアルコール飲酒による事故であった。割合は 1991 年時 21.6%から 1996 年時 17.8%と低下していた。子供が同乗中の運転手のアルコール飲酒状況を考慮すると、1994 年は 18.8%、1995 年 15.1%と下がり、1996 年 16.4%と少し上昇した。飲酒時の交通事故に対して子供の運転手が飲酒していたかどうかという観点でみると、1994 年 66.3%、1995 年 58.0%、1996 年 70.7%であった。法律上飲酒してよい 21 歳より若い者が飲酒して事故を起こしたのは、アルコールに関連する事故のうち 30.3%を占めていた。運転手が男性による事故は、女性による事故よりも 2.33 倍（95%CI;2.12-2.57）高かった。アルコールに関連する事故は、子供が車に同乗中は 25.9%（男子）、25.2%（女子）、歩行中と自転車乗車中では 9.8%（男性）、12.4%（女子）であった。車に同乗中では子供の年齢による事故の割合は変わらないが、歩行中や自転車乗車中は、6 歳から 11 歳までは男女とも他の年齢と比して低かった。子供の交通事故死は運転手がアルコールを飲んでいる場合が多いことから、交通法規を含めて徹底した交通指導が必要であることが示唆された。